

NIPPON

かわら版

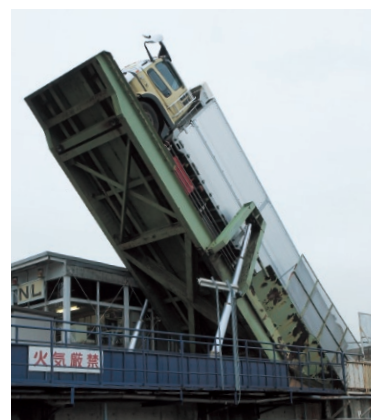
46号



日本製紙

発行所 東京都千代田区一ツ橋一丁目2番2号 〒100-0003 日本製紙株式会社新聞営業本部 電話 03-6665-1030 FAX 03-3217-3161 www.np-g.com/ newsprint@np-g.com ©日本製紙株式会社2010

新春 新聞営業本部長 藤崎夏夫インタビュー プロセス全体の効率化を!



ART製紙工場百景
photographer 新聞営業一部 雷井美夏
5ページ

一昨年の米国発金融危機に端を発した景気後退により、2009年は多くの業界で事業環境が激変しました。製紙業も需要の減退に直面し、事業の見直しが必要な状況です。一方、新聞業界でも広告減や夕刊の廃止等、厳しい状況が続いています。この状況をいかに打破していくべきか、藤崎の思いに迫ってみました。

はあらかじめ手配しているため、急激な需要減にはなかなか対応ができません。次々と日本に届く大型船を洋上で待機させたり、違約金を支払って先のオーダーをキャンセルする結果となりました。また、原材料価格が高騰していた時に購入していた在庫が消化できず、損益面で非常に厳しい状況が続きました。ただこの状況も下期に入り解消されてきています。原材料価格が落ち着いてきたのもプラス要因ですが、需要減に伴う工場の低い稼働率が新たな課題です。この固定費アップをどう抑制するか頭

り越えたいと存じますので、今年も宜しく願いいたします。

激動の2009年を振り返っていかがでしたか
一昨年のリーマンショック以降、洋紙を中心に需要が大きく減退し、大幅な操短を余儀なくされました。チップや石炭などの原材料

年頭にあたり新聞社の皆様へ一言お願いたします
新年明けましておめでとうございます。日頃ご愛顧頂いている皆様には大変お世話になっており、心より感謝申し上げます。足元の事業環境は厳しい状況ですが、新聞社の皆様と忌憚のない意見交換をさせていただきながら、この難局を乗

を悩ませています。
このような環境の下、お客様と密接に連携をとりながら、少しでもご要望に応えるべく、営業部門と技術部門が一体となって定量化や軽量化等に取り組んできました。2009年は、日本製紙の技術力を生かしてお客様との友好関係をさらに深められたという点において、営業としての力を発揮できたのではないかと考えております。

好調に見えるかもしれませんが、しかし実際には約1000億円の減収で、増益を確保できたのは全社一丸となった自助努力による部分が大きいのが正直なところです。大幅な一般管理費や労務費の削減、設備投資や修繕費の抑制を断行しました。

しかしながら、これらは何年も続けてできることではありません。機械の修繕は必ず行わなければなりませんし、しばらくすれば設備投資も必要です。増益は、一時的な対応の結果であり、会社の業績が上向い(2ページに続く)

たわけではないと考えています。失った約1000億円の売上が景気回復と共に戻る可能性は低いと想定しておく必要があります。

そうした変化に対応するべく、90万トンに及ぶ生産設備の停機を実施しております。結果、工場の従業員が転勤せざるをえない状況も発生しています。このように決算書の数字だけでは見えない痛みがあるのも事実であり、マシン停機による従業員や地域の痛みをいかに皆で分かち合うか、今後しっかりと考えて行かなければなりません。

先般発表された第3次中期経営計画について教えてください

事業環境の大きな変化を受け、2009～2011年度の第3次中計の最重要テーマとして、国内紙事業80%へのダウンサイジングを掲げております。これは、国内需要の落ち込みと、一般洋紙や情報用紙市場における輸入紙の攻勢、という2つの要素が予想よりも早いスピードで進んでいることへの対応です。この変化に対して抜本的な構造転換を

実行しなければ勝ち残れないという考えが根底にあります。生産体制再構築の推進、間接部門および本社部門のスリム化、省資源など環境対応製品の開発等に取り組む計画です。

新聞事業の位置づけはどうなりますか

新聞用紙需要は、今の所他の紙程の大きな落ち込みはありません。その点ではそのまま80%という目標が当てはまるわけではないと思っています。

当社の新聞用紙は、釧路・岩沼・八代の3工場を中心に生産をしており、この位置づけは今後も変わりません。しかし、それぞれの工場がさらなるレベルアップを図らなければ、この先勝ち残ることは到底できません。

例えば、釧路工場については、海を隔てての原料調達や製品出荷という点で、物流面でのコスト競争力は若干不利です。しかし、これまで培った技術は極めて高く、この技術力にさらに磨きをかけることで物流面でのハンデを解消したいと思っています。岩沼工場は大消

費地に近い立地を最大限に生かし、八代工場は地産地消に磨きをかけたいと思います。勇払と富士も地域性を生かすことが重要です。

また、どの工場にも共通して言えることですが、工場のスリム化は必須です。ただし、従業員のモチベーションは製品に反映され、印刷所での作業性や品質にも影響を与えるものと考えておりますので、従業員の気概を大事にしながら、皆のやる気を削がない環境作りを行うことも必要です。

2010年度のポイントはどこにありますか

2つあると思います。新聞業界では相互委託印刷や共同配送といった動きが見られ、会社間の垣根が低くなってきています。この機運の盛り上がり営業力を生かして行きたいと思えます。すべての営業担当が有機的に情報を共有し、素早く対応する体制にしていく必要があると考えております。

もうひとつは、お客様のニーズを見極めながら、双方にメリットの出るような協力体制をいかに構築でき



るかという点です。新聞用紙の製造から印刷までを1つのプロセスと考え、いかにプロセス全体を効率化していくかという視点で、ご相談やご協力ができればと考えております。

何か具体案はありますか

一部の新聞社さんで降版時間の見直しが行われておりますが、そうした発行体制の変化に対応する必要があります。これまで新聞印刷は高速化が大きな流れであり、用紙の強度等もそれに合わせて対応して参りましたが、印刷工程に余裕が産まれる場合には、品質スベックの緩和も可能になるかもしれません。また、一部の新聞社さんと古紙のクロズドループリサイクルを実施しておりますが、原材料の安定確保の視点から、それらの取り組みの拡大も重要なテーマと考えています。

一方、紙や原料以外でもできることはあると思えます。新聞社さんの印刷所は全国各地に約200カ所ありますが、おのおの印刷所で保全や修繕の管理をしているケースが多いと存じます。一方当社でもメーカーとして、計装部門や保全部門には力をいれております。輪転機自体のメンテは

難しいのかもしれませんが、我々の技術力がお役に立てる部分もあると思えます。皆様の印刷所の保全業務の一部を当社が担うことで、メンテナンス費用を削減するというアイデアも検討の価値があると考えています。

最後に新聞社の皆様へ一言お願い致します

インターネットの利便性や速報性は認めざるを得ませんが、奥の深い情報や人間心理に迫る記事は、長い歴史で積み重ねた編集力から生み出されていると感じています。そうした伝統をさらに発揮していただき、読み応えのある記事、もう一度読みたくなる記事が日本全国でさらに増えてくれれば、新聞の価値は普遍であると1人の読者として思っております。

本年の経営環境も昨年同様非常に厳しいものと思われれます。そういった中で、互いの知恵を絞りながらこれまでになかったような発想を取り入れる必要があるのではないかと考えております。全国展開する総合製紙メーカーとして、色々とご提案をさせていただきたいと思っておりますので、今後とも宜しく願い申し上げます。

一橋一丁

いっしょういっしょう

年男も3回目になる。映画「椿三十郎」で「名前前は三十郎、しかしもう四十郎ですな」なんて軽口を主人公が言っていたが、それと似たようなものになってきた。◆ついでこの間まで20代のつもりが、今では周りも子持ちが多く、旧友と久しぶりに会うと白髪交じりのオッサンにな

り驚くこともしばしば。誰でもそんなようなものだろう。◆しかしこのままただのオッサンになってもつまらないので、時間に抵抗するため暇な時に運動をしている。すると意外にまだまだいけるなど思うことがある。考えてみると歳を取るから衰えるのではなく、昔ほど運動しな

いから衰えるのだ!などと戯言を言いながら過ごすこの頃。これが本当かどうか分かったのは、本当の「四十郎」になったときか。(A)





現地より中国における新聞最新事情を「広崎賢治が徹底分析!!」

中国というと、すぐに思い出すのは、中華料理、三国志、長江、万里の長城、4000年の歴史、世界一多い人口…等いずれも親しみやすく、身近に感じられるものばかりです。一昨年は首都北京にて五輪が開催され、見事な成功を収めました。今年は上海万博、広州アジア大会が控えている上、上海ではディズニーランド建設(完成は2015年頃の予定)も始まるうかとしています。急速な近代化が進む一方で、日本とも関係がますます深くなっていることを実感しております。そのような現在の中国とその新聞事情にスポットを当てて紙面の許す限り、できるだけ詳しくご紹介させていただきたいと思っております。



日紙国際貿易(上海)有限公司
副総経理 広崎賢治

1997年10月から2003年3月までの5年半
新聞営業部に在席。元「有楽町かわら版」編集委員



約13億人の人口を持つ中国では、1943種類、2億1154万部の新聞が発行されており、新聞紙の大きさ、ページ数、編集内容等バラエティに富んでいる。また日本の新聞に比べるとカラーページが多いのも特徴の一つである。

たします。「人民日報」のページ数は16ページ程度ですの、やはりあまり多くはありません。

人民日報グループ全体として、他にもいろいろなジャンルの新聞を発行しています。

第3位の「広州日報」は、華南地区の新聞社が発行している新聞で、ページ数も

52～64ページと、まるで雑誌のように分厚い新聞です。前述の「参考消息」や「人民日報」のページ数が非常に少ないことを考えますと、中国で最も多く発行されている日刊紙は事実上、「広州日報」であると言えます。

第4位の「揚子晩報」は、まさに中国を象徴する川である揚子江(長江)から名付けられた新聞で、華東地域で広く読まれています。ページ数も32ページあり、華東地区を代表する夕刊専門紙です。

5位の「南方都市报」は、「広州日報」と同様、華南地区における新聞で、ページ数は24ページ程度です。

華南地区には、「広州日報」、「南方都市报」の他にも「羊城晩報」(114万部、32ページ)という夕刊紙もあり、大手新聞社が多数存在しています。

中国の新聞社の印刷機

中国の新聞社は各社とも立派な輪転機を持っていますが、中でもドイツ製の「マン・ローランド」、「ハイデルベルグ」などが急速に普及しています。

このように最新で印刷スピードが非常に速い印刷機械では、当然ながら、断紙の極力少ない(作業性の高い)、強度の高い紙が求められるように変化してきました。

この点では日本の新聞社の皆様方と同様に、安い紙でも品質が良くなければ買うわけにはいかないという購買姿勢へと変わってきていると思います。

新聞の価格や形態

新聞1部当たりの販売価格は、おおよそ1元(約13～14円)が相場となっています。日本を除くアジア

地域では、新聞の価格は日本の価格の1/3～半分くらいであることを考えれば、安いレベルにあると言えるでしょう。

ページ数はさまざまなのですが、前述しました通り、16～32ページというのが一般的なページ数です。ページ数が最も多い新聞は、青島市の日刊紙「半島都市报」で88ページ前後もあります。まるで日本の正月版のようです。

また、中国の新聞は日本の新聞と比べると、カラーページが多いのも特徴の一つです。

新聞紙の大きさは、新聞によりまちまちではありますが、710mm～780mm(28～31インチ、日本は813mm)と日本の新聞に比べるとやや小さめです。

中国には、山東華泰を初めて、多くの新聞用紙メーカーがあり、いろいろな新聞社に納入を行なっています。

中国で生産される新聞用紙の坪量は48.8g/㎡が主流ですが、45g/㎡も普及し始めています。また、カラー面が多いこともあり、白色度は日本よりも高めで、青白い色相になっています。

壁新聞、スタンド売り

元々、中国では宅配率は低く、写真のような壁新聞と呼ばれる掲示板のある公園や道端で、皆で集まって読むのが主流でした。

宅配率が低いのは、現在でも同じなのですが、壁新

聞を皆で立ちながら読むという光景は最近ではめっきり少なくなりました。

中国では、新聞、雑誌は写真のようなスタンド売りが中心です。このような場所で朝夕に購入され、多くの人々に読まれています。コンビニエンスストアでも販売されています。

また、最近では無料のフリーペーパーが地下鉄の駅などで配布されることが増えました。通勤電車の中で読んでいるサラリーマンやOLを見かけることも随分と多くなりました。

新聞用紙の輸入

アメリカ、韓国からの輸入新聞用紙については、1998年8月から、ダンピング課税が課されていましたが、11年の時を経て昨年8月になってようやく解除されました。解除はされましたが、この11年の間に中国国内では、新聞用紙マシンの増設が相次ぎました(表を参照してください)。

その結果、中国は元々新聞用紙の輸入国であったにもかかわらず、輸出国へと転ずることとなりました。従って、新聞用紙が輸入されることはあまりなくなりました。

広告について

新聞全体に占める広告比率は日本よりもかなり高くなっています。日本のように購読料が収入源になっていないため、景気後退により広告需要が低迷した場合でも、新聞社が存続してい

けるのかどうか、非常に懸念される場所です。広告比率の高い欧米の新聞、フリーペーパーが次々と廃刊に追い込まれているのをご承知の方も多いと思います。広告面は一般にカラーが好んで使用され、ベタ面が非常に多く、インキも濃いいため、触るとべたつきそうな感じがします。

古紙リサイクル

古紙ジャーナルという専門紙の5～6月の号によれば、中国の古紙(新聞用紙以外も含む)回収量は、右肩上がりで増えているのですが、消費量に占める回収量の比率は年によって凹凸があるとのことでした。

例えば、2002年は回収が66%(輸入が34%)を占めたのに対して、2005年は52%(輸入が48%)まで低下しています。つまり、輸入古紙が安いと輸入比率が高まり、高いと中国国内古紙にシフトするわけです。

2009年も輸入古紙が安かったため、回収が55%(輸入が45%)前後になるだろうと言われています。

現在、一般市民が新聞古紙を業者へ売る場合、一斤(500g)で4角(=0.4元…キログラム換算で11.2円)、金融危機前は8角/斤で売られていたことを考えると、半分になってしまったというわけです。

中国の現状を見た場合、古紙扱い業者の在庫が過多

気味なため、市況は低位で安定しており、今後大幅な価格上昇は見込めないとい



う状況です。

理由としては、小型の製紙工場は停機するところが多い一方で、大手の製紙工場は価格が国内品よりも安く、品質がより安定している輸入古紙を買い求めているということが挙げられます。

このような現状を打破するため、昨年9月に中国の業界団体(中国造紙協会)や製紙メーカーと一緒に日本を訪問し、紙リサイクル強化研修(10日間)を行いました。日本製紙の石巻工場も訪問しています。

日本から学んだ点は、古紙回収、利用促進に関する法整備が必要なことと、古紙回収利用業界の団体などがもっと役割を發揮する必要があること、回収システムを構築すること、及び回収利用の標準規格の制定が必要なことの4点だったということです。

日本で学んだことを十分に生かし、今後の中国の環境問題改善のためにも、古

紙回収システムの発展を期待したいと思っています。

終わりに

中国人民共和国新聞出版総署によれば、2008年における中国全体の新聞の種類および発行部数はそれぞれ、1943種類、2億1154万部です。

日本を除いた他のアジア諸国と比べると、総発行部数はすでに高いレベルにあると言えるでしょう。しかし、人口の多さを考えますと、まだ伸びる余地が十分にあります。

中国のGDPは毎年上昇しており、今年も目標の8%を達成しそうです。

新聞が拡大する前に、インターネットへ飛び越してしまうのではという懸念も確かにありますが、まだまださらなる需要の伸びが期待されるのではないかと思います。



最近無料のフリーペーパーが地下鉄の駅等で配布されることが増え、駅のホーム、通勤電車の中で新聞を読んでいるサラリーマンやOLを多く見かける。

中国 新聞用紙 生産能力一覧表

NO.	メーカー名	年産(万t)
1	山東華泰	140
2	広州造紙	139.5
3	諾斯克(河北)龍騰	53
4	安慶馬鞍山山鷹紙業集團	50
5	岳陽紙業	48
6	寿光晨鳴	43
7	齊齊哈爾	41
8	吉林晨鳴	40
8	江西晨鳴	40
10	その他	203
	合計	797.5

(注1) 諾斯克は北歐ノルウェーの製紙メーカー Norske Skog社のこと。Norske Skog社は、2009年9月に上記表NO.1の山東華泰に株式を売却し、社名も河北華泰紙業へと変更すると発表した。また上記の会社が存続している。

(注2) 2008年の中国国内における新聞・LWCの消費量は426万部であるため、371.5万/年もの需給ギャップ(供給過多)があることが分かる。